

日 協 振 189 号
平成25年12月27日

各日本語教育機関設置代表者 殿

財団法人日本語教育振興協会
理事長 佐 藤 次 郎
(公印省略)

平成25年度生活指導担当者研修の実施について（通知）

当協会の運営につきましては、日ごろから御支援をいただき厚くお礼申し上げます。

当協会では、生活指導担当者の能力向上を図るため、平成14年度から研修を実施しております。

つきましては、今年度におきましても下記により実施しますので、貴日本語教育機関の生活指導担当者（事務職兼務者、教務兼務者を含む。）で参加希望者がいる場合は、当協会ホームページに掲載の別紙様式1「推薦書」により、平成25年1月24日（金）までにEメールで総務部あて御推薦くださいますようお願いいたします。

記

- 1 日 時 平成25年2月12日（水）13：00～17：30
（懇親ネットワーク会：17：45～19：30）
2月13日（木） 9：30～15：00
- 2 会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 401号室
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
TEL 03-3467-7201
- 3 定員及び参加要件等
定員は80名程度とし、参加者は次の要件を満たす必要があります。
①日本語教育機関及び大学等教育機関の現場において実際に留学生の生活指導に携わっていること。
②経験年数は問わないが、ある程度の実務知識があることが望ましいこと。
推薦は、1校につき2名までとします。
- 4 参加費
維持会員機関（維持会費納入校）
宿泊（シングル利用）：17,600円（1人当たり）
宿泊を利用しない場合：14,600円（1人当たり）
（1日目懇親会費・2日目昼食・資料代を含む。）
○その他の教育機関からの参加は、宿泊（シングル利用）の場合23,100円、宿泊を利用しない場合20,100円とします。

5 宿泊

宿泊先としては「国立オリンピック記念青少年総合センターD棟」に日振協名で、あらかじめ確保しておりますので、御希望の方は、別紙様式「推薦書」に御記入ください（遠距離及び先着を優先）。

キャンセルの場合は、3日前までに協会総務部まで御連絡ください。

また、返金が生じた場合の手数料は、各自御負担願います。

6 日程

別紙のとおり

7 事前アンケート

参加希望者は、別紙様式2「事前アンケート」に記入の上、平成26年1月24日（金）までに別紙様式1「推薦書」と併せて総務部あて提出してください。

8 受講証明書

全期間参加者にのみ、受講証明書を発行します。

9 参加者の決定等

参加者については、後日通知します。

なお、参加費については、別途お知らせする所定の口座に振り込んでいただくよう併せて連絡します。

【お問い合わせ先】

総務部： 小野寺陽子・上戸

TEL： 03-5304-7815

FAX： 03-5304-7813

Eメール： y-onodera@nisshinkyo.org

URL： <http://www.nisshinkyo.org/>

平成25年度生活指導担当者研修日程

開 催 日：平成26年2月12日(水)～13日(木)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟401号室

司会・進行：生活指導担当者研修専門委員会

【1日目：2月12日(水)】

時 間	研 修 内 容	研修室
12:30～12:50	受付	センター棟 401
13:00～13:30(30)	開会挨拶 ・最近の留学生受入れの状況と課題 理事長 佐藤次郎	
13:30～14:00(30)	オリエンテーション 委員長 田中真一(大阪 YMCA 学院)	
14:00～15:00(60) ※上記時間に質疑応答も 含む	特別講演 「日本語教育機関をめぐる最近の出入国管理の状況」 講師：法務省入国管理局担当官 質疑応答	
15:00～15:20(20)	休 憩	
15:20～17:20(120)	セッションⅠ ※1 「急増するアジア非漢字圏留学生の諸問題について」	センター棟 401
17:45～19:30(105)	懇親ネットワーク会	カルチャー棟 レストランとき

【2日目：2月13日(木)】

9:30～12:30(180)	セッションⅡ ※2 「急増するアジア非漢字圏留学生の対応について」	センター棟 401
12:30～13:30(60)	昼 食	センター棟 レストランふじ
13:30～15:00(90)	全体会 各グループの報告と質疑応答	センター棟 401
15:00	閉 会	

○日程は変更になる場合があります。

○※1、2については、別紙「平成25年度生活指導担当者研修のねらい」参照

平成25年度生活指導担当者研修のねらい

全体のねらい

「いま、生活指導者にもとめられていること…非漢字圏留学生への対応をとおして」

中国、韓国からの留学生の減少傾向を受けて、日本語教育機関は東南アジア、南アジアでの募集活動を活発化させています。その結果、ベトナム、ネパールからの学生が急増し、これまでの中国や韓国の学生とは異なる文化、言語体系、行動様式や判断基準に、日本語学習、生活指導のさまざまな場面で教職員が戸惑うケースが数多く報告されるようになりました。

生活指導の場面では、学生管理だけをいくら厳格化しても根本的な解決にはならず、その場しのぎ的な対応であることは解っているはずです。しかし、多くの日本語教育機関にとって非漢字圏からの留学生受入れはあまり経験がなく、さまざまな課題に直面しています。学生が信頼して学ぶことのできる日本語学校づくりこそがさまざまな事故を未然に防ぐうえで、遠回りのようで一番効率的であることはこれまで各学校が留学生と向かい合ってきた経験が明らかに示しています。

その学校づくりのキーパーソンが生活指導担当者です。その職務を生活管理→生活指導→生活支援→留生活サービスと捉え、新たな課題に対応するため、職務能力向上の研修を実施します。

セッションⅠ 「急増するアジア非漢字圏留学生の諸問題について」

急増する非漢字圏留学生への対応は、私たちのいままでの体験と異なるようです。そこで、事前アンケートをもとに、実際に起こった事例、各校の抱える問題点、さらには今後予測される事態について、カードワークで共有します。

日々忙しい中で、対応が後手、後手に回っていることも考えられます。これを機会にじっくり現状把握をしてみましょう。

なかなか意見交換する場がない他の学校の担当者と積極的に話し合い、現在日本語学校でどのような問題が起こっているのか、今後どのような問題が起こり得るのかを情報共有し、原因を分析していきます。

セッションⅡ 「急増するアジア非漢字圏留学生への対応について」

現状把握から、その原因や理由を探し、問題が起こらないようにする、予防の視点の対応策をグループワークで考えます。

これまでの管理や指導といった一方通行的なコミュニケーションから、支援やサービスといった双方向コミュニケーション、と言っても足りない日本語能力、母国と異なる教職員との向き合い方など、様々な要素も考えます。

母国での生活とは異なる日本生活文化、親から離れた日々、経済的に五里霧中の生活設計、そんなストレスに囲まれた学生たちが日本留学に満足できるように、生活指導者として学校内での他部署との連携の取り方も含めて、私たちはどのように対応するのかを具体化します。

全体会

各グループの発表並びに質疑応答を通じて本研修で得た成果を更に深化させる為に今後どうすべきかを全員で考えたいと思います。

具体的には参加者全体で情報交換が出来る仕組みを作るなど、来年度は、「留学生 30 万人計画」「訪日外国人 2,500 万人」時代に向けて、日本語学校の展望が具体的に描ける手掛かりを探りたいと思います。

平成25年度生活指導担当者研修参加推薦書

平成 年 月 日

財団法人日本語教育振興協会理事長 宛て

当初認定番号		代表者名	
機関名			

標記の研修に下記の者を参加させたいので、推薦します。

記

1.参加希望者

推薦順位	1		2	
ふりがな				
氏 名				
年齢 (H26.1.1現在)	歳	☐ 男 ☐ 女	歳	☐ 男 ☐ 女
主たる業務	☐ 生活指導 ☐ 事務 ☐ 教務		☐ 生活指導 ☐ 事務 ☐ 教務	
生活指導担当者としての経験年数	年	月	年	月
事務職員としての経験年数	年	月	年	月
教務職員としての経験年数	年	月	年	月
※生活指導担当者としての通算経験年数(H26.1.1現在)	年	月	年	月
宿泊について	☐ 希望する ☐ 希望しない		☐ 希望する ☐ 希望しない	

※(1)複数の職場に生活指導担当者として、勤務実態のある場合の通算年数とする。

※(2)経験年数に関しては、未経験の場合、「0」を記入すること。

平成25年度生活指導担当者研修 事前アンケート

生活指導担当者研修への参加準備として以下の項目についてお答えください。
(経験が少なくてわからない場合は校内で聴いてお書きください。)

I 生活指導に関し、あなたの学校で起こった事例とその対応 (例: 学生が万引きで逮捕、寮に男女一緒に住んでいたことが発覚、など)

II 生活指導に関し、現在あなたの学校で抱えている問題、または今後問題になるのではと心配している事。

III 特別講演に際し、特に入国管理局担当官に質問を希望する場合、その質問事項

連絡担当者	TEL	
	氏名	

平成26年1月24日までに総務部(Eメール y-onodera@nisshinkyō.org)宛て送付願います。